

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2023

「にこやかに生きる ～大学は知の宝庫～」

第7回 12/8 (金) 13:30～15:00 報告

“学び” は、ワクワク！ドキドキ！

講師 大野 通敏 (本学非常勤講師)

於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*

本日(令和5年12月8日)の公開講座は、東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座2023「にこやかに生きる～大学は知の宝庫～」の第7回目となります。今回の講座では、本学健康福祉学部非常勤講師である大野通敏先生に「“学び” は、ワクワク！ドキドキ！」と題して講演をしていただきました。おそらく、今迄にも多くの講座に参加されている方々にとってはかなり同感できる演題名かと思いますが、一般的には学ぶことにやや苦痛を感じている人も多々いらっしゃるのではないのでしょうか？これらの点を踏まえて、作務衣姿のいでたちで始まりました。

大野先生は、お医者さんとしては「公認スポーツドクター」の資格で、東京オリンピック・パラリンピックの両大会の「救護」を担当されました。さらに、再興した禅寺で禅仏道者として、また約20年間もヨガ教室に通うヨガ行者でもあるという、大変多様性に溢れ、稀有な経験を積まれています。

事前に質問を募集され、それにお答えするという形で、今回の講演は進みました。

一つ目は「教えられたこと学んだことを消化していくのにどうされていますか？」です。「消化」という言葉に焦点を当てて、生理学の講義風に、胃を例に挙げて説明されました。①塩酸の胃液が1日に2Lも分泌されていること。②自覚できない胃の「筋肉運動」が、意思では動かせない「平滑筋」によること。これらから、「消化」とは、はからい(大脳)ではコントロールできない、「神わざ」のような「生かされている」プロセス。だから、「どうしなくてもいい」と回答されました。

二つ目は「お坊さんの法話を、生活の中でどう生かしていけばよいのか？」です。師の和尚様の「法話と大学の講義とは違う」、「法話は竹ざるで水をすくうようなもの」というお言葉を紹介されました。法話の真髄は、すぐにわかることではないので、即効性はない。しかし、約20年間聴き続けて、いつの間にか「なるほど～、さすがだなあ」と感心するようになった体験を話され、二つの「ちえ」の違いに。「知恵」は損得の判断、「智慧」は真偽の判断です。後者は体験による気づきで、こちらを禅仏道は求め続けていると、まとめられました。

三つ目は「興味がある講演会等によく参加するが、どう生かしていくか知りたい。」です。「興味がある」とはアタマが、「よく参加する」とはカラダが、共に偏差値が高いということで、「これ自体が、もうスバラシイ！」のです。「足るを知る」という、満足を知り慶ぶことでこそ欲望が減るといふ智慧を大切にしたいと、まとめられました。

事前質問された方々は、大野先生とリアルな対話ことができました。この後、タイトルをピッタリ言い当てた「プレイフルラーニング」を紹介され、その核心の心持ちである「Growth Mindset (才能は、磨けばのびる)」を、皆で唱和して終了となりました。

ゆったりとした話しから始まった講演は大変わかりやすく、印象的でいつまでも記憶に残る内容でした。予定講演時間を過ぎていましたが、終了後も、熱心な質問が寄せられ、時間は短く感じられました。

【講座の様子】

